

# 「女性論」プロジェクト研究報告

A Report of the Women's Studies Project

女子大生のキャリアデザインと女子大学のキャリア教育に関する研究  
Study about the Carrier Design of the Female University Students and  
Carrier Education for a Women's University

椋山女学園大学現代マネジメント学部教授

東 珠実

Tamami Azuma

椋山女学園高等学校教諭

小川 奈保子

Naoko Ogawa

椋山女学園大学人間関係学部准教授

小倉 祥子

Shoko Ogura

椋山女学園大学国際コミュニケーション学部教授

影山 穂波

Honami Kageyama

椋山女学園大学人間関係学部教授

藤原 直子

Naoko Fujiwara

椋山女学園大学人間関係学部教授

吉田 あけみ

Akemi Yoshida

## 1. 緒言

中央教育審議会によるキャリア教育・職業教育の在り方に関する答申<sup>1)</sup>が示されてから、すでに4年が経過した。答申のなかでキャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義され、一人一人の社会的・職業的自立に向けた「基礎的・汎用的能力」の育成が課題に掲げられた。以来、特に小・中・高等学校におけるキャリア教育に関しては、文部科学省による実態調査が行われたり<sup>2)</sup>手引書が公表されたりしてきたが<sup>3)</sup>、高等教育に関するキャリア教育については、各機関の取り組みに委ねられている部分が多い。筆者らは、この間、女子大学におけるキャリア教育の在り方を検

討するために、女子大学卒業生のライフコースの事例分析を行い<sup>4)</sup>、その結果を教材化(ロールモデル集)<sup>5)</sup>したり、女子大学におけるキャリア教育の実態調査<sup>6)</sup>を実施してきた。女子大生のキャリア教育に関しては、先の答申においても「特に、妊娠・出産等のライフイベントの影響を受けやすい女性について、社会において女性が置かれている状況や多様なライフスタイルの選択を可能とする支援策等を理解させるなど、女性のライフイベントを意識したキャリア教育の取り組みも展開されている」<sup>7)</sup>と特筆されており、その実施にあたっては、ライフイベントやライフスタイルを踏まえた固有の配慮が求められる。近年では、女子大生のライフコース<sup>8)</sup>やライフスタイルとキャリア教育<sup>9)10)</sup>に関する研究も積極的に実

施されているところである。

これらを踏まえ、本研究では、現在、女子大学に在籍する学生たちの大学への進学動機と今後の理想のライフコースについて明らかにするとともに、キャリア教育に関するこれまでの経験と今後の希望を具体的にとらえ、学生のニーズに合ったキャリア教育の在り方を追究することを目的とした。なお、調査にあたっては、京都女子大学による女子学生のキャリア教育に関する調査研究<sup>11)</sup>を参照した。また、学生たちのキャリア形成意識は、専門職志向学生と一般企業就職志向学生により異なることが指摘されている<sup>12)</sup>ことから、本研究では、まずは教養系の学部の学生たちを対象に調査を行い、キャリアデザインに関する実態

とキャリア教育の課題を明確にすることにした。

## 2. 研究方法

### 1) 調査対象者

本研究では、本学7学部のうち教養系の学部としてとらえることのできる国際コミュニケーション学部、人間関係学部、文化情報学部、現代マネジメント学部の4学部に在籍する1～3年生を調査対象とした。各学部・各学年100名ずつを目安としたが、調査票(有効回答票)の回収数は、表1のとおりとなった。

すなわち、国際コミュニケーション学部284名、人間関係学部454名、文化情報学部304名、現代マネジメント学部303名の合計1,345名を本研究における調査対象とした。

表1 調査対象者の属性(学部学科・学年)

学部 学科 学年	国際コミュニケーション		人間関係		文化情報		現代 マネジメント	合計
	国際言語 コミュニケーション	表現文化	人間関係	心理	文化情報	メディア 情報	現代 マネジメント	
1年	72	66	37	27	2	86	101	391
2年	48	44	100	91	27	61	118	489
3年	28	26	110	89	56	72	84	465
合計	148	136	247	207	85	219	303	1345
	284		454		304		303	

### 2) 調査方法

本研究における調査はアンケートにより実施した。調査時期は、2014年11～12月である。調査票は、授業中に配付・回収した。

調査内容は、以下のとおりである。

- ①大学進学に関する意思決定に関する事項  
(大学進学理由、学部・学科の選択)
- ②大学入学と資格取得に関する事項(大学入学時における資格取得の希望、大学入学時に取得をめざしていた資格)
- ③理想のライフコースと価値観に関する事項

(卒業後の理想のライフコース、人生で重要なもの)

- ④卒業後の職業選択に関する事項(就きたい職業・職種に関する意思決定、就きたい職業、希望する雇用形態、就職先を決める上で重視すること)
- ⑤キャリア教育の経験と希望に関する事項(将来のキャリア形成に関してこれまでに学んだ(体験した)こと、将来のキャリア形成のために大学で学びたい(体験したい)こと、女子総合学園のキャリア教育について

思うこと)

調査結果は、全体及び学部別に集計し、全体的傾向を把握するとともに学部間の比較分析を行った。

### 3. 結果及び考察

調査結果の概要は、表2に示したとおりである。

以下では、表2及びより詳細なデータに基づいて作成した図表を提示し、項目別に結果を考察する。

表2 調査結果の概要(1)

質問・選択肢		国際コミュニケーション		人間関係		文化情報		現代マネジメント	全体 (全体平均 または 合計)
		国際言語 コミュニケーション	表現文化	人間関係	心理	文化情報	メディア情報	現代 マネジメント	
どのような理由で大学へ進学したか	専門的な知識を身に付けたいから	36	24	40	85	10	52	40	287
	教養を身に付けたいから	18	15	38	14	7	14	11	117
	資格をとりたから	6	10	21	8	5	5	17	72
	就職を有利にしたい(良い条件で就職したい)から	22	37	45	21	23	51	129	328
	友だちをつくりたいから	1	0	0	0	2	1	0	4
	大学進学が当たり前という環境だったから	45	32	60	58	28	62	66	351
	親や先生、知人など周囲の勧めがあったから	11	9	26	12	7	29	24	118
その他	1	0	6	5	1	4	3	20	
将来就きたい職業を考えて学部・学科を選んだか	よく考えて選んだ	55	30	25	42	12	46	46	256
	少し考えて選んだ	66	61	89	70	36	94	135	551
	どちらともいえない	11	20	53	36	15	39	64	238
	あまり考えずに選んだ	10	20	40	36	16	25	31	178
在学中に資格を取得したいと思っていたか	はい(資格を取得したいと思っていた)	142	116	179	174	73	179	282	1145
	いいえ(資格を取得したいと思っていなかった)	6	19	67	33	12	39	21	197
卒業後、理想とするライフコースはどのようなものか	結婚退職後ずっと専業主婦	13	4	14	13	4	21	18	87
	出産退職後ずっと専業主婦	11	6	11	5	4	15	11	63
	結婚退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く	19	21	28	19	11	29	34	161
	出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く	46	36	77	64	25	71	93	412
	結婚退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後フルタイムで働く	5	3	9	13	2	5	12	49
	出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後フルタイムで働く	24	25	28	27	7	29	50	190
	結婚・出産後も変わらずフルタイムで働く	18	19	42	28	17	21	57	202
	結婚後はパートタイムで働く	3	3	8	7	4	4	9	38
	結婚せずフルタイムで働く	5	12	17	26	6	14	10	90
結婚後、子どもはつくらずフルタイムで働く	0	1	3	2	1	3	3	13	
その他	0	4	3	3	3	4	0	17	
人生にとってどの程度重要か [1~5点]	子育て	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	4.1	4.0
	親孝行	4.3	4.3	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	4.2
	パートナー(配偶者、恋人)との関係	4.2	4.0	4.1	4.0	3.8	4.1	4.2	4.1
	友人との関係	4.4	4.3	4.3	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3
	仕事	3.9	4.0	3.9	4.0	3.8	3.9	3.9	3.9
	健康	4.3	4.4	4.3	4.3	4.0	4.3	4.3	4.3
	美容	3.8	3.9	3.7	3.6	3.5	3.7	4.0	3.8
自己啓発活動(自分のための趣味の活動)	4.0	4.1	4.0	4.0	3.8	4.0	3.9	4.0	
社会貢献活動(社会に役立つ趣味の活動)	3.4	3.4	3.3	3.4	3.1	3.3	3.3	3.3	

注: 1)各質問に対する有効回答(未回答、不適切回答を除く)の結果を示した。  
2)[1~5点]で回答を求めた質問の数値は平均点、その他の質問の数値は回答数を表す。

表2 調査結果の概要(2)

学部・学科		国際 コミュニケーション		人間関係		文化情報		現代 マネジ メント	全体 (全体平均 または 合計)	
		国際 言語 コミュニ ケーション	表現 文化	人間 関係	心理	文化 情報	メ ディア 情報	現代 マネジ メント		
卒業後に 就きたい 職種・職業が 決まってい るか	はっきり決めている	13	18	19	12	7	18	11	98	
	ある程度決めている	63	28	69	67	29	66	80	402	
	あまり明確に決めていない	59	68	118	89	40	103	178	655	
	まったく決めていない	9	20	34	27	8	30	33	161	
	進学するつもり	1	0	2	10	0	0	0	13	
	就職も進学もするつもりはない	1	1	2	1	0	0	0	5	
	その他	0	0	1	0	0	1	0	2	
卒業後、 どのような 職業を希望 しているか	会社員	106	86	172	127	71	173	245	980	
	公務員(教員以外)	14	17	31	42	5	21	45	175	
	教員	15	16	10	5	2	2	3	53	
	自営業者(家業を継ぐ)	0	1	2	2	0	0	2	7	
	その他	7	14	21	18	5	19	6	90	
卒業後、 どのような 雇用形態を 希望してい るか	正規の職員・従業員	138	127	235	197	82	213	298	1290	
	パート	1	0	1	1	0	0	2	5	
	アルバイト	0	0	2	2	1	0	0	5	
	労働者派遣事業所の派遣社員	0	0	0	0	0	1	0	1	
	契約社員	4	4	1	3	0	2	1	15	
	嘱託	0	0	0	0	0	1	0	1	
	その他	1	2	3	1	2	0	1	10	
就職先を 決める上で どの程度 重視してい るか [1~5点]	自分の能力やスキルを活かせる	4.1	4.1	3.7	4.0	3.6	3.9	3.7	3.9	
	仕事の内容にやりがいを感じる	4.4	4.4	4.1	4.3	4.0	4.3	4.1	4.2	
	時間的・精神的負担が少ない	4.0	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	
	給与が高い	4.1	4.1	3.9	3.8	3.4	3.8	4.0	3.9	
	休暇がとりやすい	4.0	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	
	職場への交通の便が良い	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	
	職場の雰囲気・人間関係が良い	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6	
	長く勤め続けることができる	4.2	4.3	4.2	4.3	4.1	4.2	4.2	4.2	
	経営・雇用に安定している	4.4	4.5	4.3	4.4	4.2	4.3	4.4	4.4	
	仕事を通じて社会貢献できる	3.6	3.5	3.5	3.7	3.3	3.5	3.5	3.5	
性別にかかわらず活躍できる	3.9	3.9	3.8	3.9	3.5	3.8	3.8	3.8		
将来の キャリア形成 に関する 事項を これまで 学んだ (体験した) ことがあるか	近年の就職状況	ある	122	113	216	180	77	168	272	1148
		ない	23	20	24	24	4	47	23	165
	働く女性の現状	ある	125	120	215	177	76	154	284	1151
		ない	19	15	20	25	4	60	17	160
	ロールモデル(目標となる先輩)や卒業生の体験談	ある	116	94	184	146	70	150	224	984
		ない	28	36	46	57	11	65	70	313
	生活設計の方法	ある	79	69	149	106	56	103	280	842
		ない	60	62	80	94	22	109	18	445
	就職活動に必要な具体的なスキル(エントリーシートの書き方、面接の受け方など)	ある	55	54	146	115	66	144	168	748
		ない	86	79	90	83	16	71	129	554
	就職採用試験(筆記試験)の内容	ある	50	39	134	111	58	96	135	623
		ない	89	94	99	90	23	115	162	672
	インターンシップ(現場の就業体験)	ある	64	54	93	74	44	90	132	551
ない		78	77	140	126	36	124	161	742	
OGとのネットワーク	ある	45	38	77	60	28	45	80	373	
	ない	95	94	160	140	52	168	217	926	
就職のために今するべきこと	ある	79	72	166	138	70	153	212	890	
	ない	65	61	70	64	11	59	88	418	
将来の キャリア形成 に関する 事項を 大学で どの程度 学びたいか [1~5点]	近年の就職状況	4.2	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.2	4.1	
	働く女性の現状	4.0	3.8	3.9	4.0	4.1	3.8	4.0	3.9	
	ロールモデル(目標となる先輩)や卒業生の体験談	4.1	4.0	3.9	4.0	3.8	3.7	4.1	4.0	
	生活設計の方法	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.7	3.9	3.9	
	就職活動に必要な具体的なスキル(エントリーシートの書き方、面接の受け方など)	4.5	4.6	4.4	4.5	4.4	4.4	4.6	4.5	
	就職採用試験(筆記試験)の内容	4.2	4.2	3.9	3.9	3.8	3.9	4.2	4.0	
	インターンシップ(現場の就業体験)	4.5	4.6	4.4	4.5	4.4	4.4	4.6	4.5	
	OGとのネットワーク	3.9	3.8	3.7	3.7	3.7	3.5	3.9	3.8	
就職のために今するべきこと	4.5	4.4	4.3	4.5	4.3	4.4	4.5	4.4		

注: 1)各質問に対する有効回答(未回答、不適切回答を除く)の結果を示した。  
2)[1~5点]で回答を求めた質問の数値は平均点、その他の質問の数値は回答数を表す。

(1) 大学進学に関する意思決定

a. 大学進学理由

「あなたはどのような理由で大学へ進学しましたか」という問いに対する回答は、図1のとおりである。全体を見ると、「大学進学が当たり前という環境だったから」が最も多く、次いで「就職を有利にしたいから」が挙げられ、これらを合わせると半数を超える。これに対し「専門的な知識を身に付けたいから」は約2割、「資格をとりたいから」は5%強にとどまり、学生たちは総じて、明確な動機を意識することなく大学へ進学している様子がうかがえる。

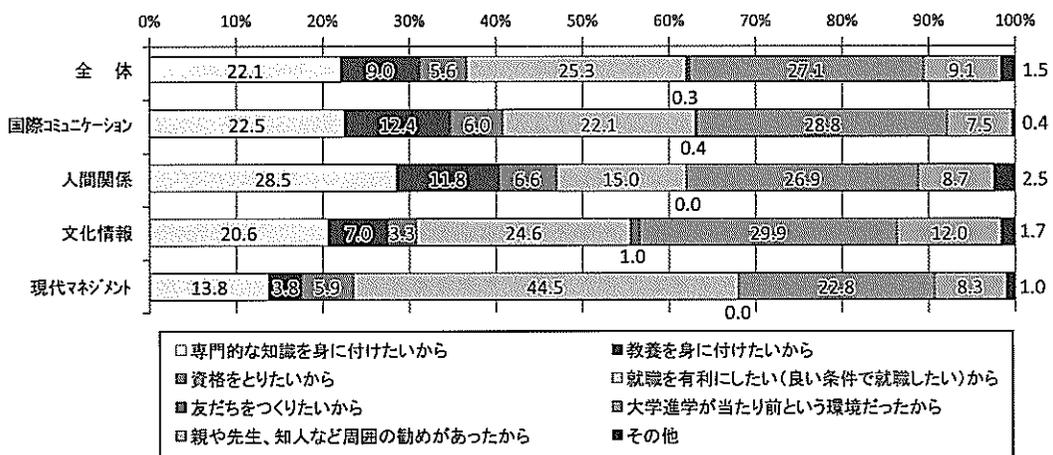
また、学部別に比較すると5%水準で有意差が確認され、特に、心理学関係の資格取得を支援する人間関係学部で「専門的な知識を身に付けたいから」とする学生が相対的に多いこと、ビジネスに関する内容を学修する現代マネジメント学部で「就職を有利にしたい」とする学生がかなり多いことがわかる。

b. 学部・学科の選択

「あなたは将来就きたい職業を考えて学部・学科を選びましたか」という質問に対する回答は、図2のとおりである。全体を見ると、「少し考えて選んだ」が最も多く、「よく考えて選んだ」を合わせると6割を超える。これに対し「あまり」または「まったく考えずに選んだ」学生は2割強にとどまり、総じて、就職を意識して大学を選んだ学生が多い。

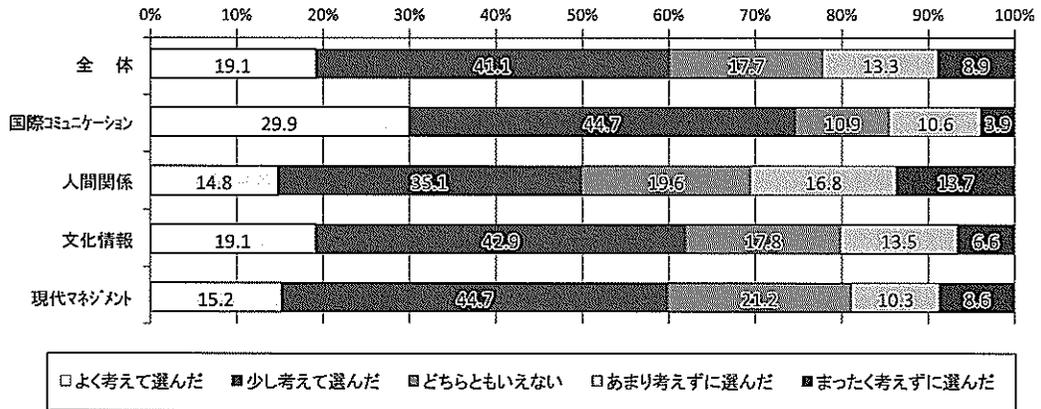
また、学部別に比較すると5%水準で有意差が見られ、国際コミュニケーション学部で「よく考えて選んだ」または「少し考えて選んだ」とする学生が7割を超え、最も多い。一方、人間関係学部では、「あまり考えずに選んだ」または「まったく考えずに選んだ」と答える学生がおよそ3割で、他学部に比べてその割合が高い。

図1 どのような理由で大学へ進学したか〔1つ選択〕



注： $\chi^2$ 検定によれば学部別の回答には5%水準で有意差が認められる ( $p = 0.0210$ )。

図2 将来就きたい職業を考えて学部・学科を選んだか〔1つ選択〕



注： $\chi^2$ 検定によれば学部別の回答には5%水準で有意差が認められる ( $p = 0.0496$ )。

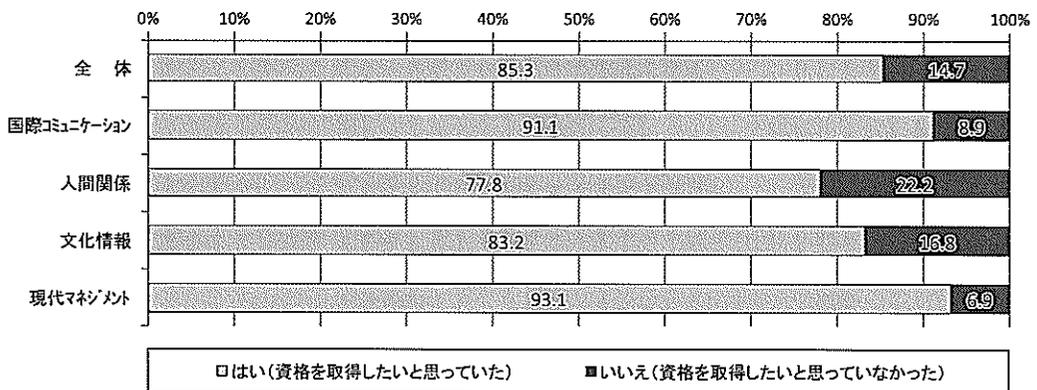
(2) 大学入学と資格取得

a. 大学入学時における資格取得の希望

「あなたは大学入学時、在学中に何か資格を取得したいと思っていましたか」という質問に対する回答は、図3のとおりである。全体を見ると、「はい(資格を取得したいと思っていた)」が約85%で、大半の学生が何らかの資格取得を望んでいることがわかる。

学部別に比較すると1%水準で有意差が見られる。特に、現代マネジメント学部、国際コミュニケーション学部では資格取得を希望している学生の割合が高く9割を超えているのに対し、人間関係学部ではその割合は8割を切り、「いいえ(資格を取得したいと思っていなかった)」と答える学生が2割以上を占めている。

図3 大学入学時、在学中に何か資格を取得したいと思っていたか



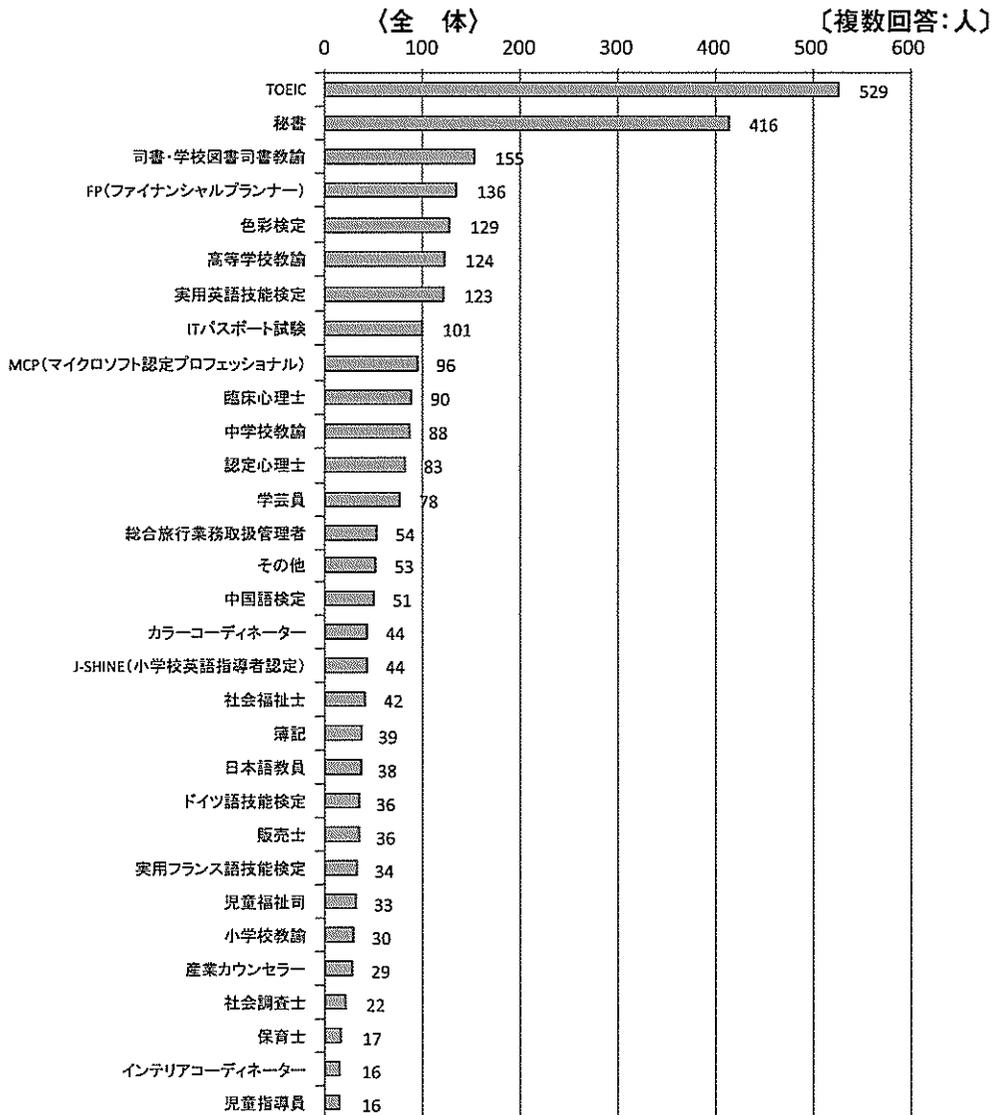
注： $\chi^2$ 検定によれば学部別の回答には1%水準で有意差が認められる ( $p = 0.0052$ )。

b. 大学入学時に取得をめざしていた資格

「大学入学時、あなたが取得を目指していた資格は何ですか」という問いに対する回答は、図4のとおりである。全体を見ると、「TOEIC」が最も多く529人、次いで「秘書検定」が416人であり、「何か資格を取得したい」と答えた学生(1,145名)のうちの4割前後が

この2種類の資格を挙げていることがわかる。これらに次いで学生たちが取得を目指した資格は「司書・学校司書教諭」であるが、その数は155人で資格取得希望者の1割程度となる。すなわち、学生が志向する資格は「TOEIC」と「秘書検定」の2つに絞られていることが明確であり、英語の実力を示すことのできる

図4 大学入学時、取得をめざしていた資格(受験資格、任用資格、検定試験などを含む)はなにか



「TOEIC」と、就職に有利となると考えられる「秘書検定」の資格を得ることに興味を持っているのである。なお、いずれの学部においても、授業を通して取得できる資格として中学校・高等学校教諭が挙げられるが、中学校 88 人、高等学校 124 人となっており、必ずしも多い数ではない。ただし教諭に関しては、本当になりたい人が受講していると考えられ、その意味では将来設計がはっきりとしている学生が目指しているといえよう。他の資格に関しては、学部による差があると見られる。

表3は、取得を目指す資格を学科別に分類し、資格取得希望者に占める割合を示したも

のである。これによると「TOEIC」は国際コミュニケーション学部で特に数値が高い。同学部では TOEIC IP の受験を定期的実施していることもあり、国際言語コミュニケーション学科で9割近く、表現文化学科でも7割近くの学生が志向している。また、他の学科を見ても、心理学科を除くすべてで、この資格が2位に挙げられている。「秘書検定」に関しては、現代マネジメント学科が6割以上、メディア情報学科と人間関係学科が3割以上で1位を占めており、他の学科でも人気は高い。各学科の特徴としては、国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科では、語学系の資格の

表3 大学入学時、取得をめざしていた資格(受験資格、任用資格、検定試験などを含む)はなにか  
 (学科別) [複数回答:%]

順位	全体	国際言語 コミュニケーション	表現文化	人間関係	心理	文化情報	メディア情報	現代 マネジメント
1	TOEIC 46.2	TOEIC 89.4	TOEIC 69.0	秘書 34.1	臨床心理士 45.4	ITパスポート 37.0	秘書 32.4	秘書 61.0
2	秘書 36.6	実用英語 36.6	司書 21.6	TOEIC 22.9	認定心理士 44.8	TOEIC 27.4	TOEIC 29.1	TOEIC 58.5
3	司書 13.6	秘書 26.1	高校教諭 20.7	社会福祉士 22.3	秘書 28.7	司書 27.4	ITパスポート 28.5	FP 42.9
4	FP 12.0	J-SHINE 21.1	実用英語 19.8	司書 12.8	TOEIC 25.3	秘書 21.9	色彩検定 21.2	販売士 10.6
5	色彩検定 11.3	旅行業務 16.2	中学校教諭 19.8	高校教諭 12.8	色彩検定 25.3	MCP 17.8	MCP 17.9	MCP 8.9
6	高校教諭 10.9	高校教諭 13.4	日本語教員 19.0	中学校教諭 10.1	司書 20.1	中国語検定 12.3	司書 16.2	簿記 8.2
7	実用英語 10.8	実用フランス語 12.7	秘書 18.1	色彩検定 9.5	学芸員 14.4	学芸員 9.6	中国語検定 12.8	司書 6.0
8	ITパスポート 8.9	中学校教諭 11.3	学芸員 12.9	学芸員 8.9	産業界セラ 14.4	色彩検定 9.6	高校教諭 10.1	高校教諭 6.0
9	MCP 8.4	ドイツ語技能 9.9	ドイツ語技能 10.3	児童福祉司 8.9	高校教諭 9.8	高校教諭 8.2	実用英語 9.5	旅行業務 5.7
10	臨床心理士 7.9	日本語教員 7.0	J-SHINE 9.5	社会調査士 5.0	中学校教諭 8.6	実用英語 6.8	カラーコーディネーター 7.3	—
11	中学校教諭 7.7	中国語検定 5.6	実用フランス語 8.6	—	児童福祉司 8.0	旅行業務 6.8	学芸員 5.0	—
12	認定心理士 7.3	小学校教諭 5.6	MCP 5.2	—	カラーコーディネーター 5.7	カラーコーディネーター 5.5	—	—
13	学芸員 6.9	—	—	—	児童指導員 5.2	—	—	—

注: 1)「何か資格を取得したいと思っていた」学生のうち5%以上が取得を希望していた資格を掲げた。  
 2)上段は資格名(一部略称)、下段は「何か資格を取得したいと思っていた」学生のうち、当該資格の取得を希望していた学生の割合を示した。  
 3)同率の場合、「全体」の順位が高い方を上にした。

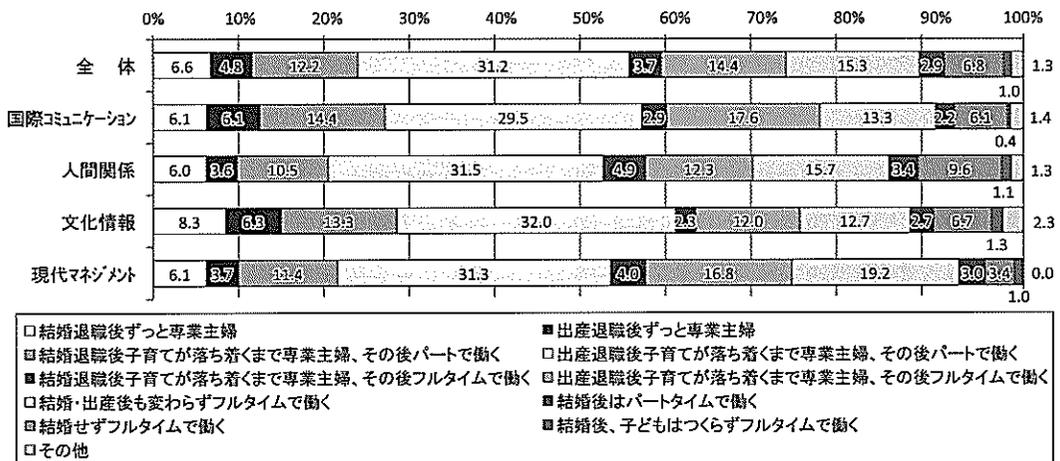
取得が志向されており、上記のとおり「TOEIC」をはじめ、前者では「実用英語」、後者では「高等学校教諭(国語)」の志望が他学科に比べ群を抜いて高い。また人間関係学科では「社会福祉士」が2割以上、心理学科では「臨床心理士」、「認定心理士」がそれぞれ4割以上で、学部・学科の特徴を示している。文化情報学科、メディア情報学科では「ITパスポート」、「MCP」とIT関連の資格が並んでいる。両学科において掲げられた資格の順位は異なるものの、その種類はほぼ同様であり、文化情報学部の特徴を示しているが、「色彩検定」がメディア情報学科で4位となっている点は興味深い。現代マネジメント学科では秘書検定が人気であるが、「FP(ファイナンシャルプランナー)」の資格取得希望に特徴がある。「FP」の資格取得希望は全体で4位となっているが、そのほとんどが当該学科の学生で占められている。同学部では、このほか、「販売士」、「MCP」、「簿記」と、就職に有利と考えられる資格が並んでいる。

(3)理想のライフコースと価値観

a. 卒業後の理想のライフコース

「あなたが卒業後、理想とするライフコースはどのようなものですか」という問いに対する回答は、図5のとおりである。全体を見ると、「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く」が最も多く3割を占めている。次いで「結婚・出産後も変わらずフルタイムで働く」、「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後フルタイムで働く」、「結婚退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く」の順となっているが、これらはいずれも10数パーセントにとどまり、「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く」というライフコースを希望する学生が圧倒的に多い。選択肢を組み合わせると、9割以上の学生が、理想のライフコースに「結婚・出産」を想定していることがわかる。また、仕事との関わり方では、結婚・出産の有無、復職のタイミング等も組み合わせると、パートタイム希望が46.3%、フルタイム希望が40.2%、専業主婦希望が11.4

図5 卒業後、理想とするライフコースはどのようなものか〔1つ選択〕



注：χ<sup>2</sup>検定によれば学部別の回答には有意差が認められない(p = 0.9914)。

%であった。さらに、この結果を国立社会保障・人口問題研究所が2010年に実施した「第14回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」の結果と比較すると、女子大学に通う調査対象者たちの特徴が明確となる。すなわち、同調査によれば、未婚女性の理想のライフコースについて、「専業主婦コース」19.7%、「再就職コース」35.2%、「両立コース」30.6%、「DINKSコース」3.3%、「非婚就業コース」4.9%という結果が得られているが<sup>13)</sup>、本調査の結果を同様に集計しなおすと、「専業主婦コース」11.3%、「再就職コース」61.4%、「両立コース」18.2%、「DINKSコース」1.0%、「非婚就業コース」6.8%となる。調査に関する諸条件が異なるため単純に比較はできないが、いずれにしても、本調査の対象学生たちは、いわゆるM字型（再就職コース）を強く志向しており、両立コースの希望者が少ないことが明白である。

次に、この結果を学部別に見ると有意差は認められず、各学部とも全体の傾向と大きな差はない。しかし、相対的な比較において、国際コミュニケーション学部と文化情報学部で「結婚退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く」がやや多く、一方で「結婚・出産後も変わらずフルタイムで働く」就業継続タイプが少ない傾向が見られる。

#### b. 人生で重要なもの

「あなたの人生にとって次の事項はどの程度重要ですか」という問いに対する回答は、図6のとおりである。全体を見ると、重要度に関する平均スコアは「健康」が4.31と最も高く、次いで「友人との関係」、「親孝行」となっている。一方、「子育て」や「社会貢献活動」など学生生活との関わりが希薄な項目の重要度のスコ

アは3.5前後と相対的に低い。

学部別に比較すると、総じて、国際コミュニケーション学部と現代マネジメント学部では重要度の評価が高く、人間関係学部、文化情報学部では低い。また、項目別に見ると、現代マネジメント学部で「美容」の重要度がかなり高く、文化情報学部で「子育て」、「美容」、「社会貢献活動」の重要度が相対的に低い。

### (4) 卒業後の職業選択

#### a. 就きたい職業・職種に関する意思決定

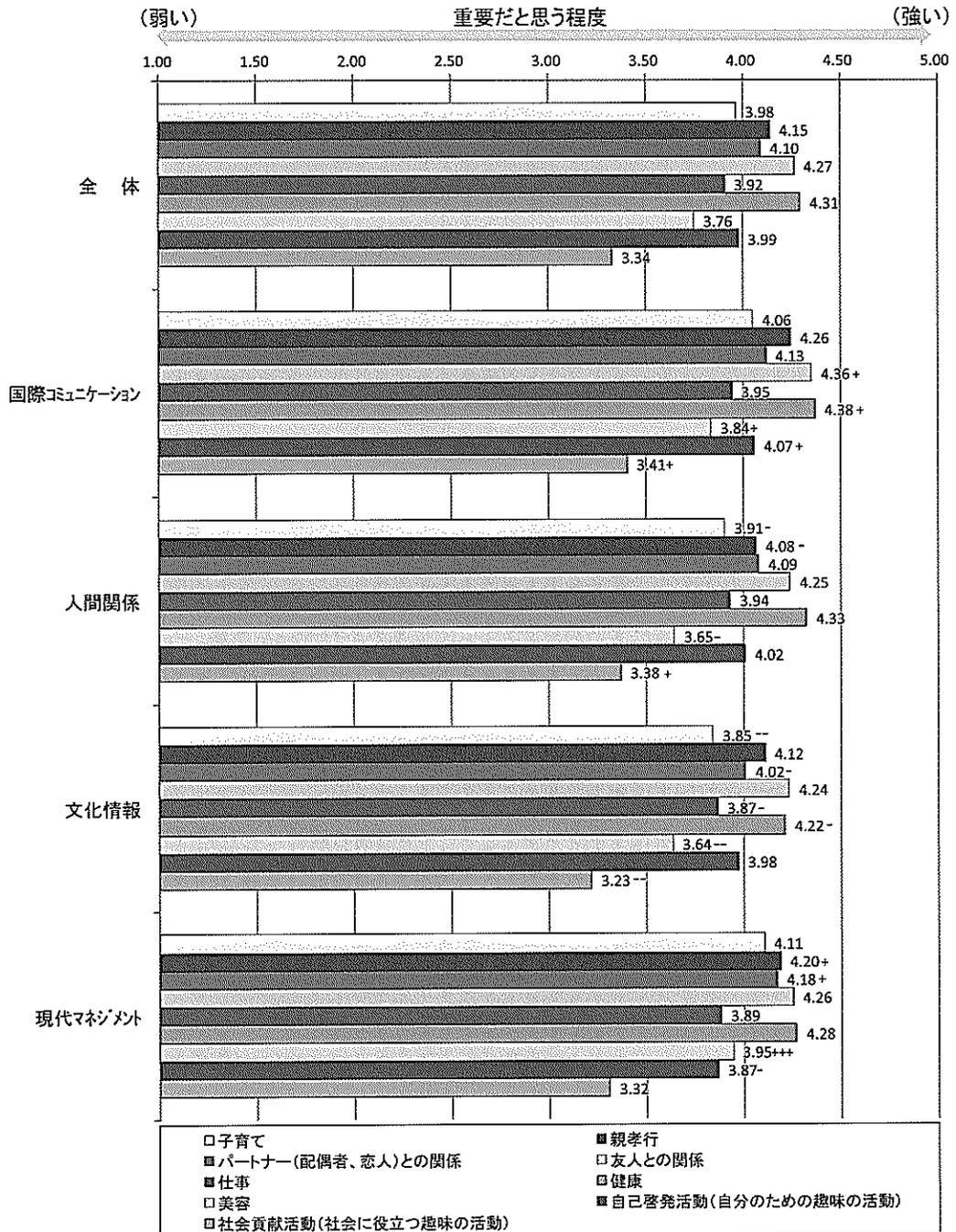
「あなたは現在、卒業後に就きたい職業・職業を決めていますか」という問いに対する回答は、図7のとおりである。全体を見ると、「あまり明確に決めていない」が最も多く、次いで「ある程度決めていない」が挙げられている。「あまり明確に決めていない」と「まったく決めていない」の合計は6割を超え、過半数が就きたい職業・職種に関して意思決定していないことがわかる。先述の大学進学理由もあまり明確ではなかったが、入学後も進路について明確な意思決定に至っていない学生が多いといえよう。

また、学部別では有意差は認められないものの、相対的に比較すると、現代マネジメント学部で意思決定がなされていない学生が多い。現代マネジメント学部では大学進学理由において「就職を有利にしたい」という漠然とした大学進学理由が多かったことと合わせて考えると、入学後もモラトリアムが継続しているということが考えられる。

#### b. 就きたい職業

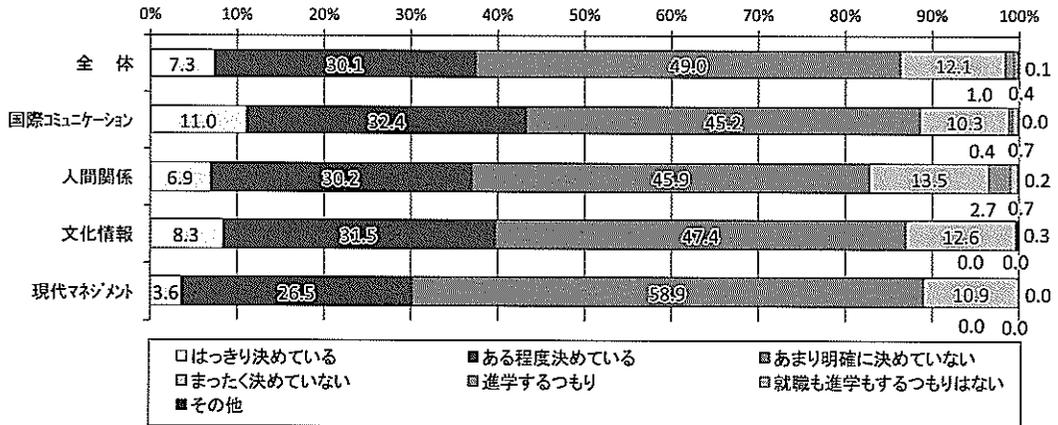
「あなたは大学卒業後、どのような職業を希望していますか」という問いに対する回答は、図8のとおりである。全体を見ると、「会社員」

図6 人生にとってどの程度重要か(5段階評価:平均点)



注: 全体の項目別平均値に対し、各学部別の項目別平均値が1%以上高いまたは低いときに+または-、3%以上高いまたは低いときに++または--、5%以上高いまたは低いときに+++または---を付した。ただし、++、---に該当する項目はなかった。

図7 卒業後、就きたい職業・職種を決めているか



注： $\chi^2$ 検定によれば学部別の回答には有意差が認められない(p = 0.5875)

が最も多く、全体の4分の3に及んでいる。次いで、「公務員(教員以外)」が挙げられている。

学部別に比較すると1%水準で有意差が見られ、「会社員」という回答が特に多いのは文化情報学部と現代マネジメント学部で、その割合は8割以上となっている。国際コミュニケーション学部では、「会社員」に次いで「公務員(教員以外)」と「教員」という回答が同程度に多い。また、人間関係学部と現代マネジメント学部では「会社員」に次いで「公務員(教員以

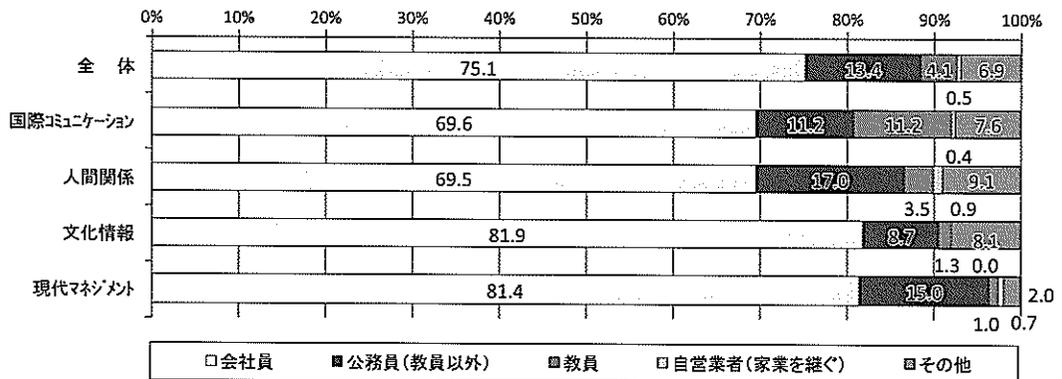
外)」という回答が多く、他学部 비해、その割合が高くなっている。

c. 希望する雇用形態

「あなたは大学卒業後、どのような雇用形態を希望していますか」という問いに対する回答は、図9のとおりである。全体を見ると、「正規の職員・従業員」が最も多く、97.2%にのぼっている。

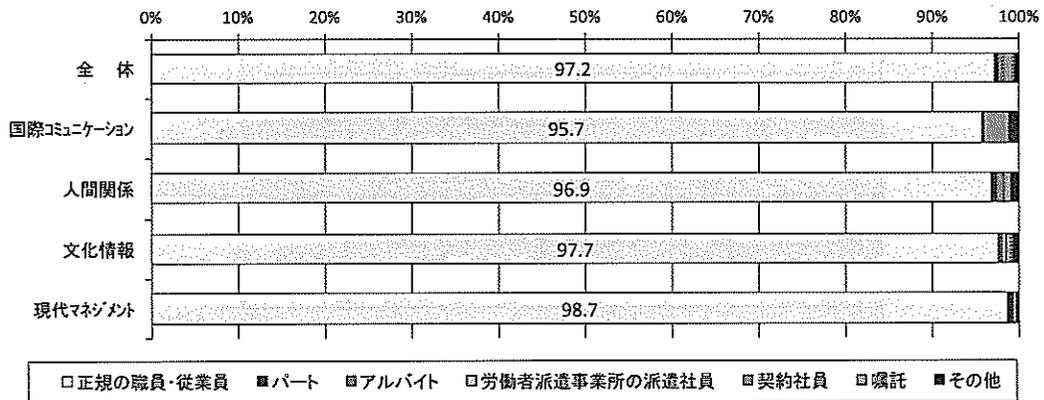
学部別の回答に有意差は認められず、いずれの学部においても、「正規の職員・従業員」

図8 卒業後、どのような職業に就きたいか



注： $\chi^2$ 検定によれば学部別の回答には1%水準で有意差が認められる(p = 0.0086)。

図9 卒業後、どのような雇用形態を希望しているか



注： $\chi^2$ 検定によれば、学部別の回答には有意差が認められない( $p = 0.9760$ )

という回答が圧倒的に多い。このように、学生は正規の職員・従業員を目指しているものの、産業構造等の変化や法律の改訂などに伴い、それらの就職口が減少し、「パート」、「アルバイト」、「労働者派遣事業所の派遣社員」、「契約社員」、「嘱託」などの非正規労働の需要が増えている現状がある。その雇用のミスマッチが、学生たちの就職戦線をより厳しいものにしていくといえよう。

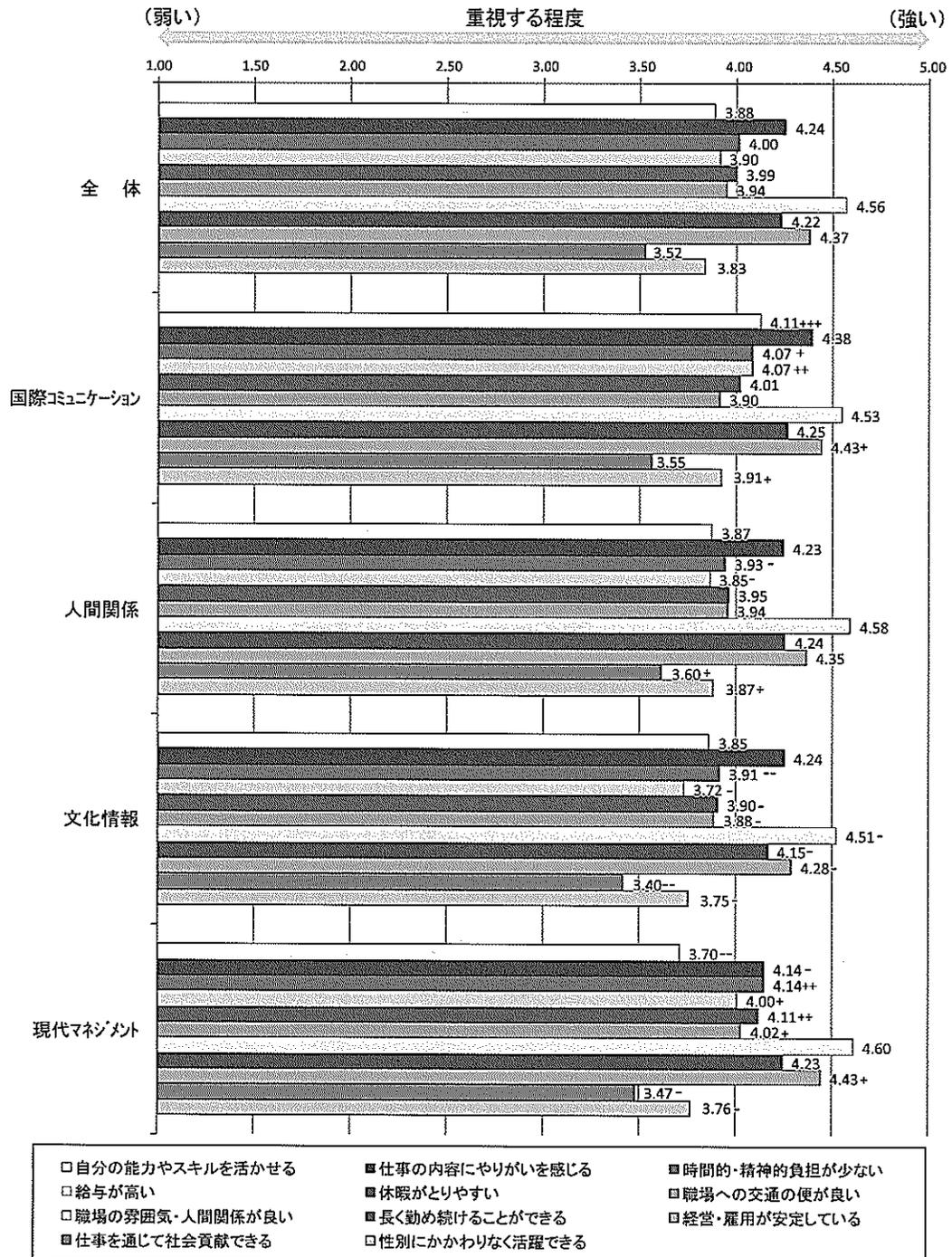
#### d. 就職先を決める上で重視すること

「あなたは就職先を決める上で次の事項をどの程度重視しますか」という問いに対する回答は、図10のとおりである。

全体を見ると、最も重視する程度が高いのは「職場の雰囲気・人間関係が良い」の4.56で、次いで「経営・雇用が安定している」の4.37となっている。さらに「仕事の内容にやりがいを感じる」、「長く勤め続けることができる」がほぼ同じスコアで続いている。一方、相対的に評価が低いのは「仕事を通じて社会貢献できる」で、スコアは3.52にとどまる。

学部別に比較すると、総じて、国際コミュニケーション学部では重視する程度の評価が高く、文化情報学部では低い。また、学部ごとの特徴に注目すると、国際コミュニケーション学部、人間関係学部、文化情報学部は、全体とほぼ同様の傾向にある。一方、現代マネジメント学部においては、「職場の雰囲気・人間関係が良い」、次に「経営・雇用が安定している」を重視する点は他と同様であるが、これらに続き「長く勤め続けることができる」、「仕事の内容にやりがいを感じる」と並んで「時間的・精神的負担が少ない」、「休暇がとりやすい」もほぼ同程度に重視されている点特徴的である。同学部においては、現代社会における労働の現状などを学ぶ機会が他学部に比べて多いがゆえに、より具体的に就職後の生活のイメージをとらえることができているということであろうか。このほか、個別項目を見ると、国際コミュニケーション学部で「自分の能力やスキルを活かせる」ことを重視する程度がかなり強い点なども特徴的である。

図10 将来の就職先を決める上でどの程度重視するか〔5段階評価:平均点〕



### (5) キャリア教育の経験と希望

#### a. 将来のキャリア形成に関してこれまでに学んだ(体験した)こと

「将来のキャリア形成(就職、生活設計)に関する事項について、これまでに学んだ(体験した)ことがありますか」という問いに対する項目別の回答は、図 11 のとおりである。全体を見ると、大学の授業で学んだこととしては、「働く女性の現状」が約 6 割と最も多く、次いで「ロールモデル(目標となる先輩)や卒業生の体験談」、「生活設計の方法」が約 4 割となっている。また、キャリアサポート課のイベント等で学んだこととしては、「就職のために今するべきこと」が最も多く、「就職採用試験(筆記試験)の内容」、「就職活動に必要な具体的なスキル(エントリーシートの書き方、面接の受け方など)」がこれに続き、いずれも約 3 割となっている。このように、大学では、授業で女性が「働くこと」をめぐる現状や生活面も含めた将来展望について学習し、他方で、就職活動に関する具体的内容についてはキャリアサポート課のイベント等で学んでいることがわかる。これに対し、中学校や高等学校における学びや体験については「近年の就職状況」が最も多く 4 割近い経験率となっている。「ロールモデルや卒業生の体験談」、「働く女性の現状」、「生活設計の方法」、「職業体験」がこれに続くが、経験している学生は約 2 割にとどまる。また、「これまで学んだ(体験した)ことはない」と答える学生が最も多いのは「OG とのネットワーク」で約 7 割を占め、「インターンシップ(現場の職業体験)」を未経験とする者も 6 割近くに及ぶ。

これを学部別に比較すると、表 4 のとおりとなる。「大学の授業で学んだ(体験した)」と

答える学生の割合が高いのは現代マネジメント学部で、「ロールモデルや卒業生の体験談」は約 9 割、「働く女性の現状」は約 8 割、「近年の就職状況」は約 5 割、「生活設計の方法」は約 4 割を示し、いずれも他学部に比べ圧倒的に高い。また、現代マネジメント学部に次いでこれらの項目の大学での学習経験率が高いのは、人間関係学部である。これらの特徴は、学部のカリキュラム内容に依るところが大きいと思われる。これに対し、国際コミュニケーション学部では、上記の 4 項目について「中学校や高等学校で学んだ」とする回答が 4 学部中最も多い。また、同学部では、「就職活動に必要な具体的なスキル」や「就職採用試験」を経験していない学生の割合が他学部に比べかなり高いという特徴も見られる。この点については、国際コミュニケーション学部の調査対象者は他学部と比較して低学年の回答者が多いことが影響していると推察される。このほか、人間関係学部と文化情報学部では、「就職活動に必要な具体的なスキル」や「就職採用試験」を「キャリアサポート課のイベント等で学んだ」とする回答が相対的に高く、同課の利用率が高いものと思われる。なお、全体において未経験率が高かった「OG とのネットワーク」と「インターンシップ」については、いずれの学部においても「これまでに学んだ(体験した)ことはない」と答える学生が半数以上に及んでいる。

#### b. 将来のキャリア形成のために大学で学びたい(体験したい)こと

「あなたの将来のキャリア形成(就職、生活設計)のために、次の事項をどの程度学びたい(体験したい)ですか」という問いに対する回答は、図 12 のとおりである。

図11 将来のキャリア形成に関する事項についてこれまで学んだ(体験した)ことがあるか

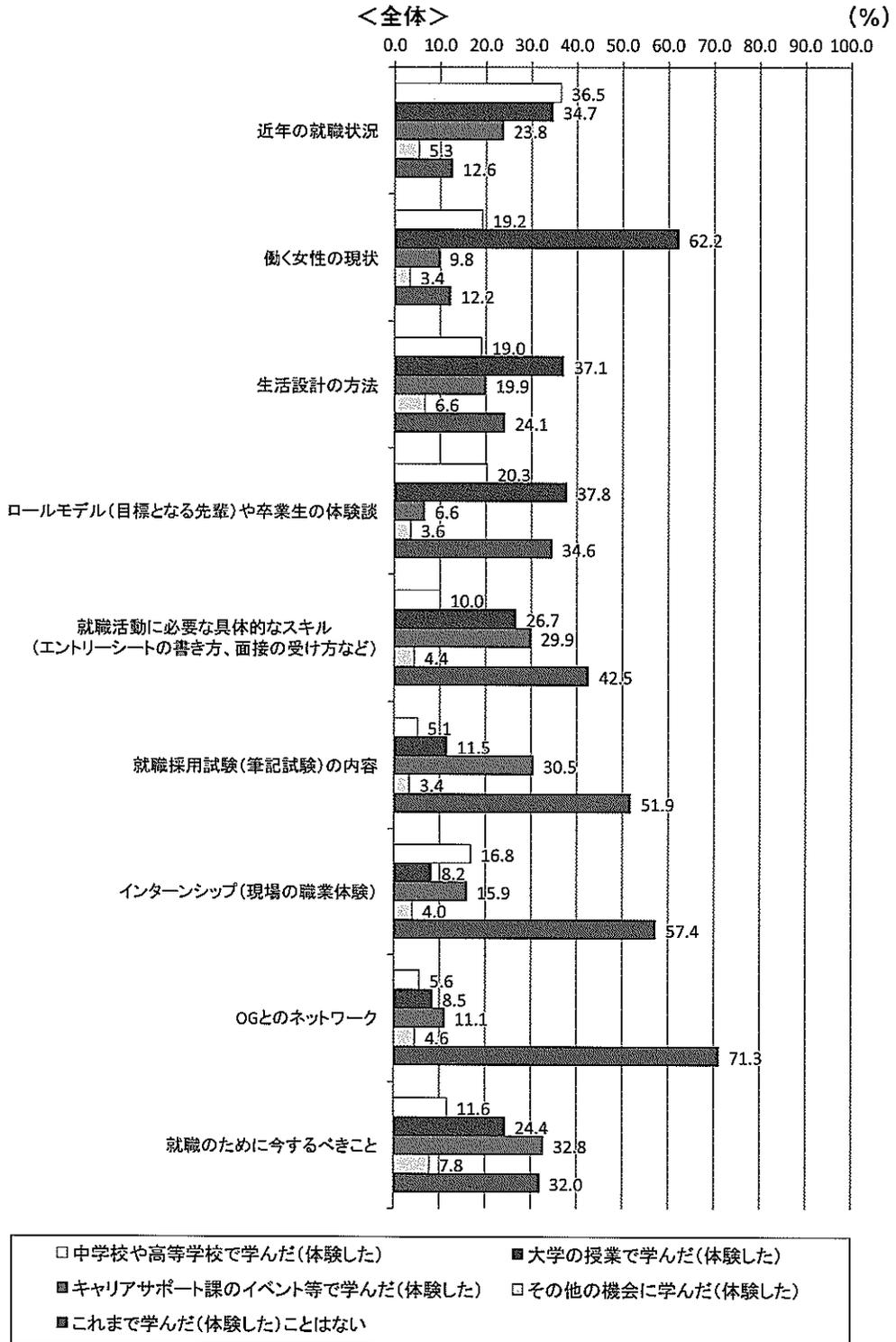


表4 将来のキャリア形成に関する事項についてこれまで学んだ(体験した)ことがあるか  
(学部別) (%)

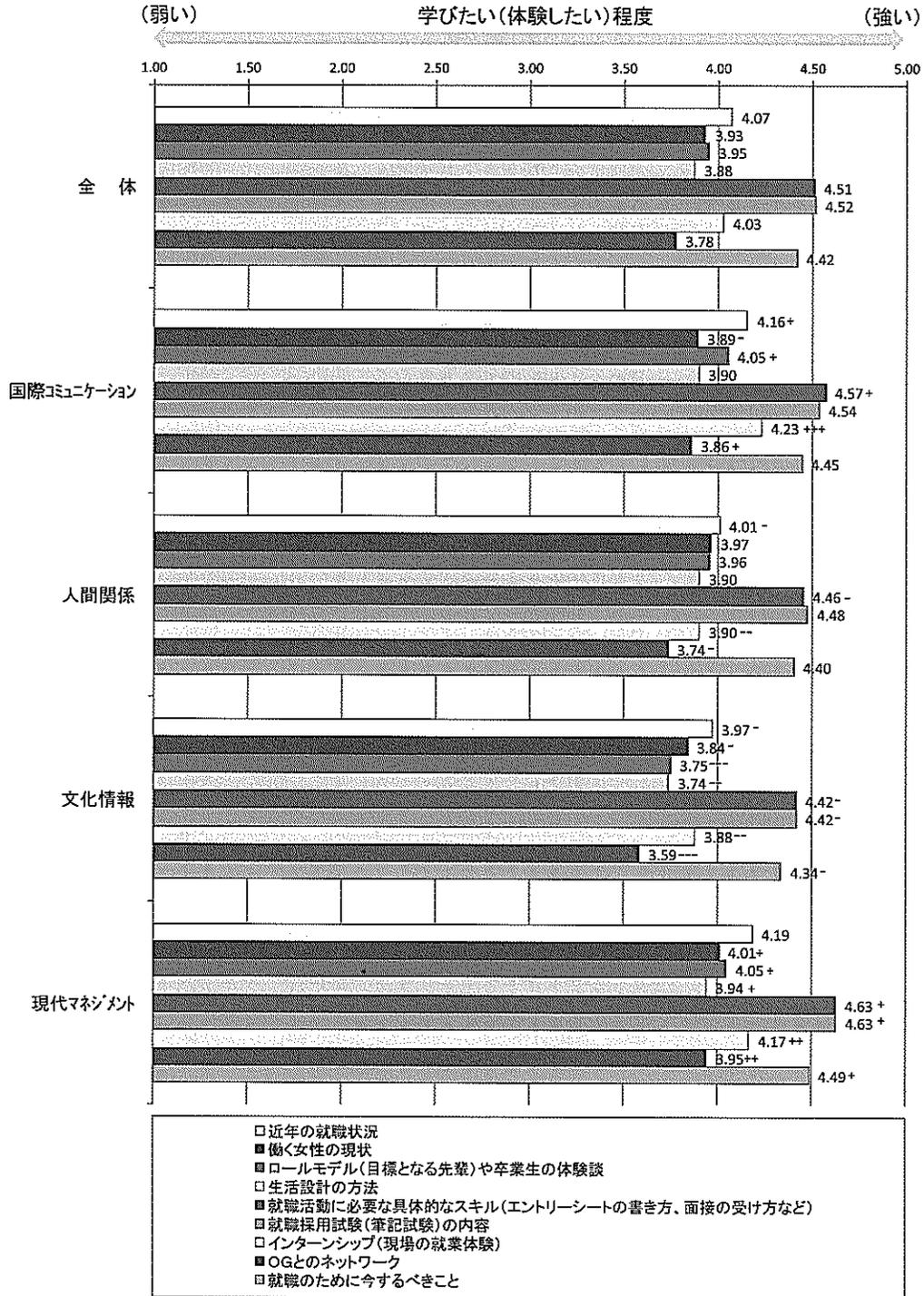
項目	選択肢	国際 コミュニケーション	人間関係	文化情報	現代 マジック
近年の就職状況	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	49.3	33.3	36.5	29.2
	大学の授業で学んだ(体験した)	20.9	32.2	31.8	54.2
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	18.0	29.3	24.3	20.3
	その他の機会に学んだ(体験した)	6.1	6.8	3.0	4.4
	これまで学んだ(体験した)ことはない	15.5	10.8	17.2	7.8
働く女性の現状	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	26.2	15.3	22.1	15.6
	大学の授業で学んだ(体験した)	60.2	65.4	44.6	76.7
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	7.2	11.4	12.6	7.0
	その他の機会に学んだ(体験した)	1.8	3.9	5.1	2.3
	これまで学んだ(体験した)ことはない	12.2	10.3	21.8	5.6
生活設計の方法	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	27.0	15.9	17.6	17.7
	大学の授業で学んだ(体験した)	33.9	38.3	34.1	41.2
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	16.4	21.0	23.6	17.7
	その他の機会に学んだ(体験した)	8.8	7.4	4.7	5.4
	これまで学んだ(体験した)ことはない	23.4	23.8	25.7	23.8
ロールモデル (目標となる先輩)や 卒業生の体験談	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	34.8	22.6	18.6	5.4
	大学の授業で学んだ(体験した)	13.0	24.0	29.7	88.3
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	5.6	9.8	6.6	3.0
	その他の機会に学んだ(体験した)	4.4	4.4	3.1	2.0
	これまで学んだ(体験した)ことはない	45.2	40.6	45.2	6.0
就職活動に必要な 具体的なスキル (エントリーシートの 書き方、面接の受け方 など)	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	9.1	10.4	11.4	8.8
	大学の授業で学んだ(体験した)	17.2	22.6	36.7	31.3
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	20.4	34.3	36.0	25.9
	その他の機会に学んだ(体験した)	4.0	5.1	3.0	5.1
	これまで学んだ(体験した)ことはない	60.2	39.9	29.3	43.4
就職採用試験 (筆記試験)の内容	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	5.9	3.9	6.2	5.1
	大学の授業で学んだ(体験した)	4.4	12.9	11.6	15.8
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	20.2	37.3	36.6	23.9
	その他の機会に学んだ(体験した)	3.7	3.9	2.1	3.7
	これまで学んだ(体験した)ことはない	67.3	43.5	47.3	54.5
インターンシップ (現場の職業体験)	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	18.7	10.9	22.1	18.4
	大学の授業で学んだ(体験した)	6.6	7.9	7.1	11.3
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	15.0	17.3	16.7	14.0
	その他の機会に学んだ(体験した)	4.4	4.4	2.7	4.4
	これまで学んだ(体験した)ことはない	56.8	61.4	54.4	54.9
OGとのネットワーク	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	8.5	4.1	5.8	5.1
	大学の授業で学んだ(体験した)	9.6	7.6	7.8	9.4
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	10.3	14.4	8.5	9.4
	その他の機会に学んだ(体験した)	5.1	5.5	3.8	3.7
	これまで学んだ(体験した)ことはない	69.5	68.6	75.1	73.1
就職のために 今するべきこと	中学校や高等学校で学んだ(体験した)	14.4	8.2	13.7	12.0
	大学の授業で学んだ(体験した)	14.8	17.4	31.1	37.0
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	22.0	42.0	36.2	26.0
	その他の機会に学んだ(体験した)	9.4	7.5	6.5	8.0
	これまで学んだ(体験した)ことはない	45.5	30.6	23.9	29.3

注: 経験率(学んだ学生の割合)または未経験率(これまで学んだことはない学生の割合)が50%を超えるものに網掛けをした。

全体を見ると、「就職採用試験の内容」、「就職活動に必要な具体的なスキル」がいずれも4.5程度の高いスコアを示しており、続いて「就職のために今するべきこと」が4.42となっている。さらに、「近年の就職状況」、「インターンシップ」がこれらに続いているが、逆に相対的に

スコアが低いのは「OGとのネットワーク」、「生活設計の方法」である。これらの結果から、将来のキャリア形成のために大学で学びたいと強く思っている内容は、およそ就職活動にすぐに役立つような具体的なスキルであることがうかがえる。

図12 将来のキャリア形成に関する事項をどの程度学びたい(体験したい)か  
〔5段階評定:平均点〕



注: 全体の項目別平均値に対し、各学部の項目別平均値が1%以上高いまたは低いときに+または-、3%以上高いまたは低いときに++または--、5%以上高いまたは低いときに+++または---を付した。

学部別に比較すると、総じて、現代マネジメント学部と国際コミュニケーション学部では学びたい程度を示すスコアが高く、文化情報学部では低い。しかしながら、「就職採用試験の内容」または「就職活動に必要な具体的なスキル」のスコアが最も高く、これに「就職のために今すべきこと」、「近年の就職状況」、「インターンシップ」が続くという傾向は、国際コミュニケーション学部以外で共通している。国際コミュニケーション学部では、「近年の就職状況」よりも「インターンシップ」の方がスコアが高く、その値は4学部中、最も高水準である。さらに、同学部では、「ロールモデルや卒業生の体験談」も現代マネジメント学部と並んで最も高い値を示している。現代マネジメント学部では、ほとんどの項目において他学部に比べスコアが高く、中でも就職活動に直結するような学びに関しては4.63というかなり高いスコアが示されている。また、人間関係学部では、「インターンシップ」について、未経験者の割合が4学部中最も高い(表4)にもかかわらず、これを体験したいという希望は、相対的に低い。文化情報学部においては、上記のとおり、全体の評価水準が低いが、とりわけ、「ロールモデルや卒業生の体験談」、「OGとのネットワーク」といった先輩とのつながりに対するニーズが低い傾向にある。

これらの結果については、調査対象者の学年構成の影響なども受けていると思われるが、総じて学生たちは就職活動に関する具体的にすぐ役立つ知識を学びたい(体験したい)と強く思っていることが明らかである。キャリア教育を行う教員側としては、働くことの意味、ライフコースの選択、男女共同参画など今後社会において働くことに関する知識や、自

分なりの生き方を実現できる力を身につけてもらいたいという思いがあるが、学生たちは「就職活動に直結する知識」を強く望んでおり、そこに意識のズレが生じていることがうかがえる。

#### c. 女子総合学園のキャリア教育について思うこと

最後に、「女子総合学園のキャリア教育について、あなたが思うこと(希望、独自性など)を自由に書いてください」という問いに対する回答について考察する。

全調査回答者1,345名のうち169名(12.6%)から回答(自由記述)が得られたが、特徴的な記述から、女子総合学園のキャリア教育に求めている内容をまとめると、次の点を掲げることができる。

- ①女性の生き方や就職に対する希望の多様性に配慮したキャリア教育
- ②出産・育児後の仕事復帰に関する情報提供
- ③女性が働きやすい企業に関する情報提供
- ④卒業生等による具体的な体験談
- ⑤女性らしさやマナーに関する教育

①については、「女性ならではのキャリア教育」を求める意見が多いなかで、具体的には「就職、結婚、出産に活かせるようなキャリア教育が学べるとよい」、「就職以外の道もあるのでそういう方向を考える機会があると良い」、「専業主婦など、家庭以外の仕事をしていない人の話も出すべきではないか」など、女性に対するキャリア教育においては、就職だけがすべてではないといった趣旨の意見が見られる。また、「仕事でキャリアアップを望む人よりも、結婚、出産に目標を置いている人のほうが多いと思う」という意見がある一方で、

「事務職だけでなく自分が必要とされる専門職にも就くことができるようなサポートがほしい」という意見もあり、これらに対応するように「働きたい職種が決まっている人とそうでない人を分けて、別々でキャリア教育をしてほしい」というコメントも見られる。このような指摘は、まさに、生涯の継続的な総合職への就職志向が明確な男子学生に比べ、女子学生のキャリアやライフスタイルに対する希望は多様であることを示すものであり、さまざまなニーズに応えるキャリア教育が求められているといえる。

②については、①で指摘した点と大いに関連がある。「卒業後の理想のライフコース」に関する調査結果(図5)からも明らかなおり、多くの学生たちの将来設計のなかには、自分自身が「出産退職後、子育てを経て再就職する」というイメージがある。そのときに備えるという意味で「子育てのあとに再び社会復帰するためには何をしておけばよいのか」、「結婚出産後、職場復帰するためにはどうするのか、資格は何を取っておくべきか知りたい」、「再就職する際に役立つスキルなどに特化した講義があると良い」などの意見が見られる。

③は、女性にやさしい職場環境を求めるものである。これについては、「女性が働きやすい企業や女性社員が多い企業などを聞いてみたい」、「女性が長く勤務するためにはどのような企業が向いているのか」、「女性が働き続けやすい職種を教えてほしい」、「女性が活躍している(OGが働いている)会社、企業を知る機会を増やしてほしい」など、多くの意見が見られた。

④は、上記①～③の意見と合わせて、女性が働くということについて具体的な話を先輩か

ら聞きたいとするものである。「OGと話す場がほしい」、「卒業生の方々がどのように活躍しているのか知りたい」、「今現在、仕事を活発にやっている女性の話を聞いてみたい」など、働く女性の生の声を聞きたいという意見だけでなく、「卒業して就職した先輩に、大学での生活をどう過ごしていたのかを聞いてみたい」など大学時代の過ごし方を経験者から学びたいとする意見も見られた。

⑤については、女子大学が「マナーの良いこと」で社会的に認知されているという前提に立ち、それにふさわしいキャリア教育を求めるものである。「女性らしさを学ぶ機会があるといい」、「女性らしさ、上品さ、マナー、礼儀を身に付けたい」という意見に加え、「(調査対象の)女子大学ではマナーの良さが企業からイメージされているそうなので、そのことを学生に伝え、当該大学の学生であることを自覚させることで、各自の日常生活における行動が改善するのではないか」や「表面的なマナー教育だけではない普段(授業中、学内外での行動・ふるまい)の当たり前ともいえる常識的なマナーに対して、注意や指導をしても良いかと思う。女子大学に入って、あまりマナーが良くないところを見てきたので」など、マナーに関する社会的評価と実態がかけ離れていることを問題視し、日常的なマナー教育の必要性を求める意見もあった。

以上のほか、女子大学(女子総合学園)の評価として「共学校とは違い、女性の主体性が育つと思う」、「女子大ならではの女子中心の教育は自分のためになる。共学では学べないものがある」といった点を指摘する声が多い一方で、「男女で意見が分かれるような内容を学ぶとき、女子大では不利だと思うことがある」と

いうコメントもあり、「近くの大学とディベートする機会があると面白いと思う」といった具体的な提案もみられた。さらに、早期(低学年)からのキャリア教育や、資格取得に関する支援の強化、国際的な現状に対する情報提供、多様な職業・活動(自営業、起業、ボランティア)に対する情報提供などを求めるコメントも見られた。

#### 4. 結語

以上のように、本研究では、女子大学の教養系学部在籍する学生たちの大学への進学動機と今後の理想のライフコースを明らかにするとともに、キャリア教育に関するこれまでの経験と今後の希望を具体的にとらえてきた。本研究の成果を要約すると、以下のとおりである。

- ①女子大学の教養系学部在籍する学生たちは、総じて、明確な動機を意識することなく大学へ進学しているが、学部・学科の選択に当たっては、6割が就職を意識しており、8割以上が在学時に何らかの資格取得を目指している。なかでも、「TOEIC」と「秘書検定」は学部を問わず取得希望者が多いが、その他の資格は、学部の特性を反映したものである。
- ②理想のライフコースについては、結婚・出産により退職し、子育て終了後再就職するという「再就職型(M字型)」への支持が6割を超え、家事・育児と仕事の「両立」を目指そうとする学生は2割未満である。また、人生のなかで、「健康」、「友人との関係」、「親孝行」などを大切にしたいと考えており、「再就職型」を志向するわりには、「子育て」を重視する志向は相対的に低く、「社会貢献」へ

の関心も希薄である。

- ③仕事に関しては、半数以上が卒業後に就きたい職種・職業を決めておらず、進路への明確な意思決定が十分ではない。ただし、ほとんどの学生が「正規の職員・従業員」として「会社員」になりたいという漠然とした希望を有しており、就職先を決めるにあたっては、「職場の雰囲気・人間関係が良い」ことや「経営・雇用が安定している」ことなどを特に重視している。
  - ④キャリア教育に関しては、主に大学の授業で「働く女性の現状」や「ロールモデルや卒業生の体験談」、「生活設計の方法」などについて学び、キャリアサポート課のイベント等で「就職のために今すべきこと」、「就職採用試験の内容」、「就職活動に必要な具体的なスキル」などについて学んでいる。授業での学習状況については、学部の特性による違いが大きい。また、学生たちの経験率が低いのは、「OGとのネットワーク」や「インターンシップ」である。このような現状に対し、今後、学生たちがキャリア教育で学びたい内容を見ると、「就職採用試験の内容」、「就職活動に必要な具体的なスキル」、「就職のために今すべきこと」が上位を占め、キャリアサポート課が取り組む内容ばかりが、強く求められている。一方、個別の意見を見ると、女性のライフコースの多様性や女性らしさに配慮したキャリア教育を実施してほしいとする意見も多くある。
- このような結果を踏まえ、学生の実態やニーズを前提に今後のキャリア教育の在り方について考えると、次のような課題があると思われる。

1点目は、「早期からのキャリア教育への取

組]である。今回の調査で、女子大学の教養系学部在籍する学生たちは、明確な進学動機や進路への具体的な希望を十分に有していないことから、入学直後から、将来の生活や仕事をイメージできるような取組を、授業とキャリアサポート課の双方の取組により積極的に展開していく必要がある。

2点目は、「大学の授業におけるキャリア教育の取組とキャリアサポート課による取組の棲み分け」を明確にすることである。キャリアサポート課においては、学生たちが最も求めている就職活動に関する具体的なスキルなどを中心に一層指導を充実させるとともに、長期的に働き続けることを前提とした就職支援に徹することが期待される。一方、授業においては、生活面も含めたライフデザイン教育としてのキャリア教育を充実することが望まれる。したがって、企業以外の就職先や活動の仕方についても広く提示するとともに、「両立型」のみならず、「再就職型」のライフコースにも焦点を当てた情報提供や、多様な働き方や暮らし方をする具体的なロールモデル（卒業生等）の話聞く機会を創出していくことが重要である。

3点目は、「女子大学におけるキャリア教育のアピールポイントの明確化」である。これについては、単なるマナー教育の充実にとどまらず、女子大学の強みをどこに置き、それをふまえた独自性のあるキャリア教育を大学を挙げてどう展開するのか、という点について、キャリア教育に関わる教員と職員が協議する場を設けることが必要であると思われる。

以上のように、女子大学におけるキャリア教育については、共学校以上に、授業とキャリアサポート課と卒業生（同窓会）等との連携が

重要となる。学生の自由記述の中にも「女子大学の強みを面接で言えるようにしたい」という意見があり、それをキャリア教育という側面ですべて具体化するかについて、大学及び学園として継続的に検討することが、今求められている。

#### 引用文献・参考文献

- 1) 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」(2011年1月31日)。
- 2) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」(2011年3月)、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書（概要版）—キャリア教育の現状と課題に焦点を当てて—」(2013年3月)。
- 3) 文部科学省「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」(2011年5月)、文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」(2011年3月)、文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」(2011年3月)。
- 4) 東珠実・小川奈保子・小倉祥子・影山穂波・藤原直子・吉田あけみ「女子大学卒業生のライフコースと女子大学の特性に関する研究—20代から80代の卒業生へのインタビュー調査を手掛かりに—」、『椋山人間学研究』第7号(2012)、pp.110～136。
- 5) 椋山女学園大学女性論プロジェクト「ロールモデル集 椋山発の女性たち」(2013)。
- 6) 東珠実・小川奈保子・小倉祥子・影山穂波・藤原直子・吉田あけみ「女子大学におけるキャリア教育の比較研究」、『椋山人間学研究』

- 究』第9号(2014)、pp.164～180。
- 7) 中央教育審議会、前掲書、p.70。
- 8) 加藤容子・小倉祥子・安立奈歩「四年制大学進学女性のライフコース分析(1)―職業・子育て・結婚の価値観尺度の開発―」、『椋山女学園大学研究論集』第42号(社会科学篇)(2011)、pp.163～176。
- 9) 藤原直子「女性のライフスタイルに関する授業の効果分析(1)―キャリア意識に注目して―」、椋山女学園大学人間関係学部・大学院人間関係学研究科『人間関係学研究』第12号(2013)、pp.93～104。
- 10) 吉田あけみ編著『ライフスタイルからみたキャリアデザイン』ミネルヴァ書房(2014)。
- 11) 京都女子大学「現代GP『女子学生のキャリア教育の体系化と普及』文部科学省現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム(平成18年度・平成19年度)アンケート調査報告書」(2008)。
- 12) 亀田温子「専門職就職者と企業就職者のキャリア意識形成―高校教育と大学教育の職業レリバンスの実態を探る―」、十文字学園女子大学『社会情報論叢』第17号(2014)、pp.213～240。
- 13) 国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査／結婚と出産に関する全国調査独身者調査の結果概要」[http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14\\_s/doukou14\\_s.asp](http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14_s/doukou14_s.asp) (2015/01/05)。(このなかで、専業主婦コースは「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」、再就職コースは「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」、DINKSコースは「結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける」、非婚就業コースは「結婚せず、仕事を一生続ける」とされている。)